

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立納所小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・教師は、学力向上アクションプランに基づいた授業を実践していく中で、授業の流れを大切にできるようになった。算数科では、児童自身が既習内容を活用する場面を設定し、前向きな態度を見せるようになった。 ・学力向上は、本校の喫緊の課題である。話を聞く力を伸ばすために、学習習慣の定着・学力向上に取り組んでいく。		
2 学校教育目標	心豊かに自ら学び 生き生きと活動する納所っ子の育成 ～ともに 伸びる 教育活動の実現～		
3 本年度の重点目標	○「心を育む活動」の充実・・・か(感じて考えて動く心づくり) ○「連携教育」の強化・・・つ(つながって学ぶ環境づくり)		
	○「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ(全力で学ぶ意欲づくり) ○「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ(根気強くやりぬく姿勢づくり)		

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマインプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・教職員間でマインプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・それぞれのマインプランの中に、授業の初めに音楽を入れること。必ず書く活動を入れることを設定していた。すべての教職員が、音楽して書く活動を実施することができた。その際も、ただ書かせるだけではなく、視点を与えたり、条件を付けたりして、書かせていた。	A	・学期ごとの懇談会では、子どもたちの学習の様子を詳しく話していただいている。先生方の熱意を感じる事ができた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学習意欲と成就感を育む授業づくり	○「自分の考えを書いたり、まとめやふり返りを書いたりすることができる」児童を80%以上にする。	・音読活動を授業の始まりに行う。 ・各教科において自分の考えを書いたり、まとめやふり返りをしたりする活動を、授業の中に取り入れる。	A	・12月実施のアンケート調査の結果は84%の児童が、自分の考えを書いたり振り返りを書くことができたことと答えていた。しかし、視点に沿った文章を書くことができる児童を増やすためには、個別に支援をする必要がある。また、書く時間を十分に確保していくことが今後の課題と考える。	A	・自分の考えを書くことができる子どもが増えてきていることは嬉しいことである。書く力をこれからも伸ばして行ってほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○元気のよい「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行ったりして、意識付けと実践化を図る。	B	・アンケートで80%以上の児童が「あいさつをちゃんとしている」と回答した。担任にももちろんのこと、廊下ですれ違った教職員に対してあいさつをする子どもも増えた。言葉づかいについては、機会あるごとに話し、授業中や休憩時間の交流の中で気づかせるように行った。	B	・授業参観に来た時は、子どもたちから元気に挨拶をしてくれるのでうれしく思う。先生方の指導が行き届いている結果ではないか。	・道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気になる児童への支援の在り方について話し合う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	・いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員90%以上であった。 ・なかよしアンケートの結果をもとに、該当児童への指導や支援の在り方を協議し、共通理解を図ることができた。 ・12月、2月にいじめの対応について、校内研修を行い、対応を確認することができた。	B	・いじめがなくていいとする先生方の努力に感謝している。子どもたちの声を聞き逃さず、これからも指導を続けてほしい。	・生徒指導主事
●健康・体づくり	◎特色あるふるさと学習・体験学習の充実	○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・生活科では「肥前町の施設を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、児童が郷土に興味関心をもつ授業を実施していく。	A	・郷土の施設、建物を見学したり、地域の方のお話を聞いたりすることができた。その中で、昔の郷土の様子や行事、人々の暮らしぶり等を学ぶことができた。すべての児童が「納所」そして「唐津」が好きと答えていた。 ・今年の実践をデータで残し、来年度に伝える必要がある。	A	・子どもたちがふるさとへの納所を大好きに取組むを続けていただき感謝している。	・教務主任 3～6年担任
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童を80%以上にする。	・食に関する意識調査を年2回実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「食の大切さ」を考える授業を実施する。	A	・給食週刊では、給食の歴史を健康委員会が発表したり、全校児童が給食センターの方々に手紙を書き活動を行った。食への関心や食中毒予防などができた。また、保健の授業では、栄養素や規則正しい生活について学習し、食の大切さを学習させることができた。	A	・食育は家庭と学校が協力して行う必要がある。これからも情報発信を続けてほしい。 ・今年度は給食給食給食は新型コロナウイルスの影響があつて開催されず、残念だった。	・保健部 各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体づくりにつながる運動遊びの奨励	○学校で多様な運動遊びを楽しむ児童を80%以上にする。	・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。	B	・新型コロナウイルスの対応をしながらも、それぞれの学年で、竹馬、短距離走をはじめ、可能な運動に取り組んだ。運動会や持久走大会等も競技や進め方を工夫して行うことができた。	B	・新型コロナウイルスの影響で、体育の授業に苦心されたら聞いている。 ・運動会は、子どもたちが思い通りに活動できる様子を考えられていて、先生方の配慮が見られた。	・保健部
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。	A	・全職員の時間外勤務の平均時間は約37時間。 ・特別活動推進日(水・金)だけでなく、タイムマネジメントを心がけて、働き方を見直す実践ができ始めている。	A	・勤務時間を過ぎても多くの方が仕事をしていると聞いている。休職を申し立てるまでは、子どもたちから心配するので、健康第一でがんばってほしい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価		
○特別支援教育の充実	○個に応じた教育の充実	○児童への配慮や心構えが向上したと答える教員を80%以上にする。	・校内支援委員会、支援のあり方について見直しを図り、そのことを職員に提示し、実践を行う。 ・校内研修で、スクールカウンセラー等を講師として支援のあり方を学ぶ研修会を行う。	B	・学期に1度ずつ、のびこ研を実施した。のびこ研では、支援が必要な児童の情報を出し合い、職員間で共通理解を図った。 ・必要に応じて、保護者とカウンセラーを繋ぎ、保護者の不安な気持ちを軽減することができた。	B	・子どもたち一人一人に丁寧に対応していただいている。保護者も相談に乗りやすい雰囲気だと聞いている。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上アクションプランのPW→GW→CWの授業形式に書く活動(自分の考えを書く、ふり返りを書く)を取り入れた研修を進めることができた。「理由をはっきりさせたり、例をあげたりして、自分の考えを書く」ことができた児童が80%以上となり、授業改善が進んでいる。次年度も授業のねらいを明確にし、児童自身が問題を解決していく授業を組み立てることで、学力の確かな定着に取り組んでいく。 ・毎月実施している「なかよしアンケート」をもとに、児童の学校でのがんばりや悩みを把握し、賞賛や指導を行うことはできた。いじめの対応については、研修会を定期的に行うとともに、日頃から児童の様子について話し合える教職員集団であることを心がけてきた。SCやSSWを交えた研修会を次年度も実施し、児童にもっと寄り添うことができる教職員集団を目指す。							